一般質問

災害対策

島﨑隆夫（しまざきたかお）議員が町に問う！

発災時における情報伝達は

答弁　手段の多重化が求められています

Q 災害対策の現状は。

A **防災地域支援課長**　災害対策で重要なことは「自助・共助・公助」の底上げによる「地域防災力の強化」です。自助・共助の啓発を図るため、規模の小さな地域単位での防災訓練を促し「顔が見える地域コミュニティ」と「地域特性に応じた備え」の重要性を共有しています。

また、公助の強化は、災害用資機材や備蓄消耗品の計画的な整備・町職員による指定緊急避難場所の開設訓練・民間団体等との災害時協定の締結などを図っています。

Q 発災時の情報伝達に係る体制や手段は。

A **防災地域支援課長**　発災時の情報伝達について最も重要なことは「速さと正確性」です。各地域に向けた共有方法としては、区長へのメールや電話による伝達が中心となりますが、防災行政無線等と併せて行うことで、漏れのない情報共有が図れると考えています。一方で、通信速度の低下や、通信そのものが行えなくなる等を想定し、あらかじめそれらのリスクを回避しておくことも重要と捉えています。国や県からも「情報伝達手段の多重化」が求められています。

消火栓の管理も備えの一つ

ユーチューブ

稲村壌治（いなむらじょうじ）議員が町に問う！

町長チャンネル立ち上げを

答弁　今後どうあるべきか考えていきます

Q 映像を活用し、当町の現状や未来を伝えるチャンネルをつくるべきと考えるが。

A **総務課長**　現在、広報おがわ、ホームページ、X（旧ツイッター）で情報発信しています。ユーチューブを活用した町長の発信については、今後どうあるべきか考えていきます。

リニューアル予定の道の駅

Q 予算規模も非常に大きく、絶対に失敗できない事業だが、改修の進捗は。

A **にぎわい創出課長**　令和6年度工事予定の大規模改修、新築工事に向け実施設計を、また管理運営候補者も町内店舗や観光施設の地域資源について情報収集を進めています。

ChatGPT（チャットジーピーティー）の導入

Q 職員の負担軽減に向け導入を。

A **政策推進課長**　正確かつ安全に活用できれば、業務効率改善が期待されます。

一方、AI戦略会議では、さまざまなリスクにどう対処すべきか議論されています。

解体工事が始まった道の駅おがわまち

50年後の人たちから感謝されるような政策をお願いしますね。
（S・Yさん　22歳）

小川町に住んで子供を産み育てていきたいと思える町づくりを期待しています。
（I・MHさん　40代）

学校給食費

田中立男（たなかたつお）議員が町に問う！

無償化に向けた考えは

答弁　現時点で実施する予定はありません

Q 子育て世代の人たちにとって歓迎されると思うが町の考えは。

A **学校教育課長**　無償化は、少子対策としての効果を見極める必要があるとともに、財源確保が必要となります。したがって現時点で実施する予定はありません。

町のにぎわい復活に向けて

Q 町訪問者数の把握の一手段として、駅利用人数の把握ができるのか。

A **都市政策課長**　駅に確認したところ、年間乗降客数のデータ提供は可能とのことです。今後確認していきます。

Q 駅構内にある地場産品の展示について、見直しや工夫は。

A **にぎわい創出課長**　駅は当町の玄関口であり、PRには大変重要なスポットです。商工会に促していきます。

Q 駅前通りをはじめ、空き店舗の活用は町のにぎわいにとって不可欠。活用は進んでいるのか。

A **にぎわい創出課長**　令和5年度は「空き店舗活用補助金」の対象エリアの拡大と、補助を増額しました。すでに4件の活用があり、今後も支援を続けていきます。

展示の充実でさらなるPRを

変化する町

山口勝士（やまぐちかつし）議員が町に問う！

広がる「面白い」の実感は

答弁　取組の成果は表れてきています

Q LINE「小川町情報スモリバ」は、町が面白くなってきていることを実感させてくれるが。

A **政策推進課長**　町のファンを増やすことを目的に実施しています。令和4年4月1日時点では1607人の登録者でしたが、令和5年9月現在は9300人。町の情報の発信だけではなく、町内企業や団体の情報発信の手段としても利用され、町の公式な発信媒体とは違う多彩な内容を発信してくれています。

Q 今後の町づくりのポイントは。

A **政策推進課長**　町内外の方の当町への見方や人の流れが変わりつつあるのではと感じています。例えば社会増減（転出入の増減）は平成28年度は151人減。その後も200人近い減が続いていましたが、令和3年度は31人・令和4年度は59人減と、これまでの取組の成果が表れてきていると捉えています。今後も町の魅力向上の施策、地域資源の強みや企業、団体の取組の発信により、関係人口の創出増加を図ります。また、子供たちの「おがわ学」学習や「若者未来会議」、企業や高校・大学との連携で、多彩な方の町づくりへの参加を図っていきます。

若者未来会議主催「まちあるき×謎解きゲーム」

「激変の時代」今までの考えや形を守るだけでは発展はありません。果敢なチャレンジを！（Z・Tさん　76歳）

新体制議会になり、少しずつ改革されていくことに期待しています。議員の手腕の発揮を！
（M・Eさん　74歳）

次ページから新シリーズスタート！

小川町議会だよりは写真にコダワル！　写真は編集委員が「撮る」「選ぶ」。キャプション（写真説明）も工夫します。